

4. ドイツ語圏としてのドイツとオーストリア

(1) ドイツ人が建設した二つの国：ドイツとオーストリア

ドイツ語はドイツ (Deutschland) に住むドイツ人 (Deutsche/Deutsches Volk) が母語として用いている言語です。この点については、あえて説明する必要はないと思いますが、それでは、ドイツの隣国オーストリア (Österreich) に住むオーストリア人 (Österreicher) の母語は何でしょうか。答えはドイツ語です。

現在、ドイツとオーストリアは、それぞれ異なる独立国家ですが、歴史的には、ともにドイツ民族が興した国です。以下では、両国の歴史について簡単に説明します。

中世、ドイツ地方には 300 を超える諸邦 (王国、公国、君主国、自治都市等) が存在しました。オーストリアはその一つで、他に、バイエルン Bayern、ザクセン Sachsen、ブランデンブルク Brandenburg、ヘッセン Hessen 等がありましたが、これらのドイツ人の国々は神聖ローマ帝国 (Heiliges Römisches Reich) という枠組みの下でまとまっていました。

右図：15 世紀初頭の神聖ローマ帝国とイタリア

ドルーシュ『ヨーロッパの歴史』172 頁より

神聖ローマ帝国の皇帝は投票権のある有力諸侯 (Kurfürst/Kurfürsten) によって選出されましたが、15 世紀前半以降は、オーストリアを治めていたハプスブルク家 (Habsburg) が帝位を独占するようになりました。このようにして、オーストリアは帝国内で名声や権力を高めていきましたが、17 世紀になると、ドイツ人の東方植民の拠点として発展してきたプロイセン (Preußen) が台頭します。そして、18 世紀以降、ドイツ内では、プロイセンとオーストリアの覇権争いが強まるようになりました。これを「ドイツ二元主義」と呼びます。

しかし、プロイセンとオーストリアは、19 世紀初旬、フランスの皇帝ナポレオンとの戦いに敗れ、弱体化します。また、ナポレオンによって神聖ローマ帝国は解体させられます。

19 世紀中旬になると、ドイツ統一に向けた運動が高まります。そして、1871 年、ドイツ諸侯はプロイセンの下でまとまり、ドイツ帝国 (Deutsches Kaiserreich) を建設しました。その際、オーストリアも帝国に含めるかどうか激しく議論されましたが、オーストリアの領土内には、ドイ



ツ民族以外の民族も大勢住んでいたため、オーストリアは除外されることになりました（小ドイツ主義）。

プロイセンを盟主としてドイツ帝国が発足したのは、前述したように 1871 年ですが、そのわずか 3 年前、我が国では江戸時代が終わり、元号は明治に変わっています。文明開化を目標に掲げていた明治政府はドイツから法律を初めとする多くのことを学びましたが、ドイツ帝国自身も新しい国であり、幕末期、ドイツ帝国はまだ存在していませんでした。

ところで、近代日本の模範となったドイツ帝国は、第 1 次世界大戦で敗れたことを機に崩壊し（1918 年 11 月）、ドイツはワイマール共和国（Weimarer Republik）へと変わりました。この時代、オーストリア出身のヒトラーはドイツに移住し、ドイツで政治的成功を収めると、母国オーストリアをドイツに併合するようになります。

しかし、ドイツは第 2 次世界大戦でも敗れ、両国は分離させられることになりました。つまり、オーストリアは引き続きドイツに留まることを希望しましたが、連合国によって認められませんでした。そのため、戦後の冷戦期、オーストリアは中立国となって独立し、現在に至っています。

(2) ドイツ語の方言とオーストリア

ところで、ドイツ語圏内の各地では、それぞれの言葉、つまり方言が話されています。一般に、単語や文章に大きな違いはありませんが、発音はかなり異なるため、違う地域の人々の間ではコミュニケーションがとれないことがよくあります。

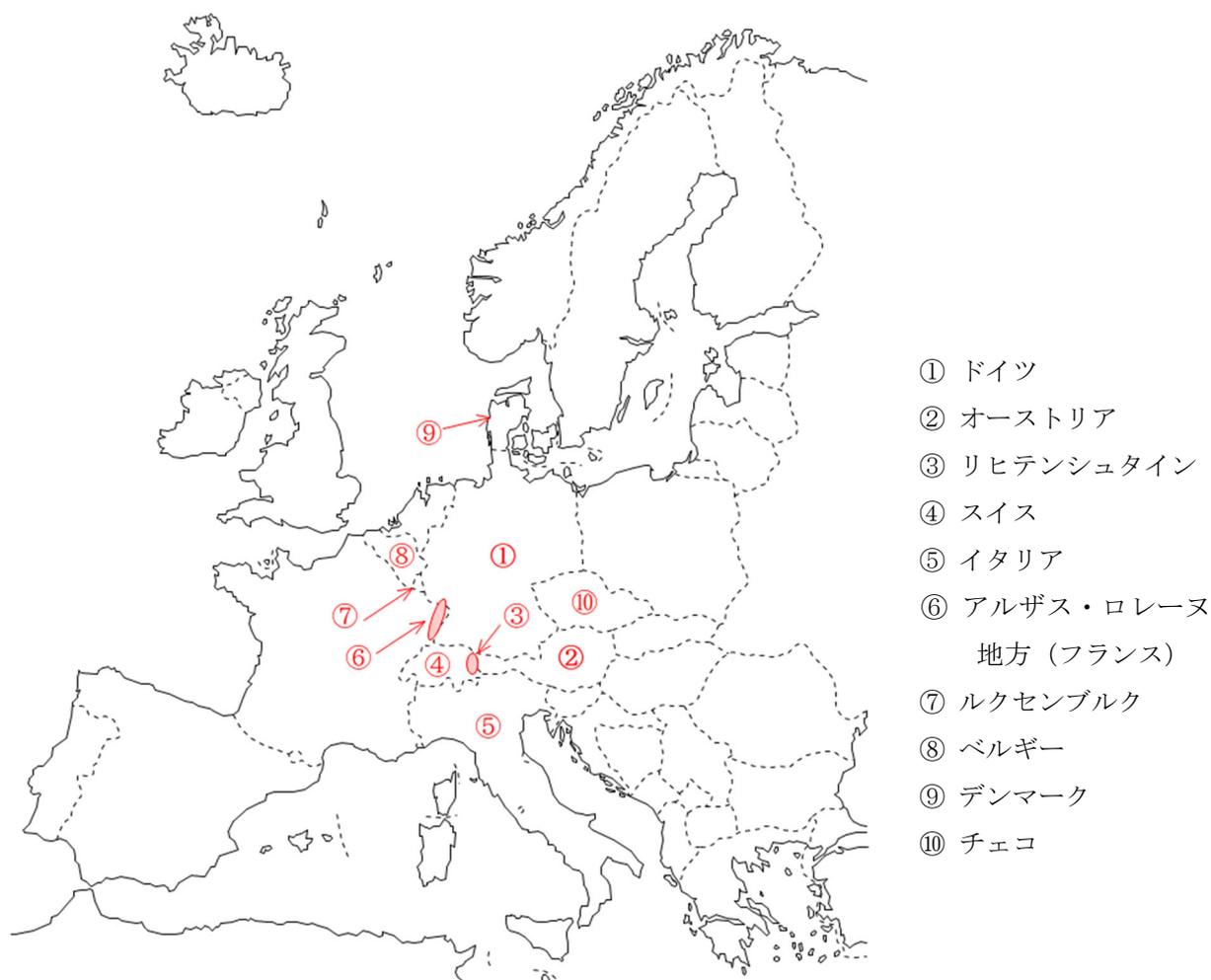
標準語とされているのは、北ドイツで話されているドイツ語（Hochdeutsch）ですが、それを基準にすると、東方にあるオーストリアのドイツ語には独特の訛りがあります。また、単語や表現にも違いがあります。例えば、「ジャガイモ」や「炭酸入り林檎ジュース」は次の通りです。

	ドイツ	オーストリア
ジャガイモ	Kartoffel	Erdapfel (Erd+Apfel 土の中の林檎)
炭酸入り林檎ジュース	Apfelsaftschorle または Apfelschorle	Apfelsaft gespritzt

なお、ドイツは EU の前進である三つの欧州共同体に設立当初（1950 年代）から加盟していますが、オーストリアが加盟したのは、それから 40 年以上が経過した 1995 年 1 月です。その際、EU は「オーストリアのドイツ語」を分かり易くするため、単語リストを作成しています。

(3) その他のドイツ語圏

ドイツ語は、ドイツとオーストリアの他に、スイス、ベルギー、ルクセンブルク、リヒテンシュタインで公用語に指定されています。なお、スイス、ベルギー、ルクセンブルクは、フランス語を含む複数の言語を公用語としていますが、リヒテンシュタインはドイツ語のみを公用語にしています。



このように、ドイツ・オーストリア以外でも、ドイツ語を公用語とする国があるのは、国内にドイツ系住民が多数、住んでいることに基づいていますが、同様の理由から、イタリア北部、チェコ、デンマークといった国の一部の地域では、ドイツ語が浸透しています。なお、イタリア北部やチェコでドイツ語が普及しているのは、これらの国・地域は、オーストリアを治めていたハプスブルク家 (Habsburg) の領土であったためです。

同様に、フランスのアルザス・ロレーヌ地方 (中心地はストラスブール) は、伝統的にドイツとの結びつきが強く (ドイツが支配していた時代もありました)、ドイツ語を理解できる住民がいます。